

第259回 令和8年6月26日（金）

「触れてみること」

少し前に映画を製作した人物が「自分の映画を見てもいないのに批判をしている評論家がいる。」と言って怒っていたことがありました。情熱と時間とお金を注いだ作品を見てもいないのに批判されたら怒るのも無理ないと思います。「見ない」という選択はあってもいいし、あの人の作品は面白くないと批評することも構わないと思いますが、それをSNSなどで公にすることはルール違反だと思います。

私も読書が大好きで、月に12～13冊くらい読みます。ジャンルは多岐にわたっていますが、読了後はスマホのメモ欄に作品名、作者名と一緒に自分の評価をつけておきます。こうすると自分が高評価をつけている作者がわかるので、後から購入しやすくなります。

とはいえ、買ったものの読了できなかった本もあります。基本的にグロテスクすぎるとか、冒頭の説明が長すぎるとか、感情移入できないほど登場人物が多すぎるとか、文章が読みにくく作者の独りよがりになっているとか、その他理由はもろもろあります。

でもその本はメモ欄に評価はつけません。もちろんどこかでメモを公開などしませんが、それでも自分が読了していない本を評価するのはアンフェアなような気がしています。読んでいるこちらに原因があるのかもしれませんが。

政治的な要素のある本や物議をかもし本も、なるべく食わず嫌いにならないように目を通します。悪いと言われている本でも触れることなしで「この本は悪い本だから」と敬遠することはしないようにしています。読了できるかどうかはわかりませんが、人の考え方は様々です。噴飯物の主張もありますが、触れることなしで批判をすることは良くないと思っています。

「あの人は悪人だ」と決めつける風潮がありますが、会ったことも話したこともない人に対してそれを拡散することは間違っていると思います。例えば芸能人などが一つ悪い面が見つかるとうと人格全てを否定するような攻撃に遭います。攻撃している人の99%は会ったこともない人だと思っています。それはルール違反なのではないでしょうか。

人間には良い面も悪い面もたくさんあります。お互いそれを良く知ったうえで距離を置いたり、相手と議論をしたりすることはあり得ます。しかし噂や評判で相手を決めつけてしまうことは自分の成長の機会を奪う意味でも良くないことだと思います。

もちろん危ない人に近寄る必要はありませんし、法に背いているような気配があれば遠ざかるべきだと思います。距離感の掴み方は経験を通して培っていくものです。